

## 第 3 次西東京市農業振興計画素案変更点

※パブリックコメント直近から期間中に変更となった点

	変更箇所・ページ	変更前	変更後
※	全体文章 文字サイズ	9.5	10.5
	P.6 農産物販売金額規模別農家数割合の推移のグラフ	(注釈追加)	※平成 17 年、22 年は販売農家の数値、平成 27 年、令和 2 年は農業経営体の数値
	P.6 農業所得と農業所得以外の所得のグラフ		(農業所得と農業所得以外の所得を別々のグラフに変更)
	P.10	(文章追加)	しかし、農業者では「知ってはいるが、自らの販売等において、特に活用する意向がない」という回答も多くあります。
※	P.14 農地面積・生産緑地面積の表	地目別土地面積 平成 24 年から令和 3 年分掲載 平成 30 年 農地面積 145.6 生産緑地 124.9	農地面積と生産緑地面積 平成 29 年から令和 4 年分掲載 平成30年 農地面積 130.9 生産緑地 113.5
	P.14 経営耕地面積規模別農家数の表	(注釈追加)	※平成 22 年は販売農家の数値、平成 27 年、令和 2 年は農業経営体の数値
	P.14 生産緑地の貸付について、徐々に貸借が進んでいる。	(文章追加)	また、農業者間での貸借も徐々に進んでいます。
	P.17 農家数の推移の表	※平成 7 年までは総農家数は専業農家と兼業農家*数の合計、平成 12 年からは総農家数は専業農家と兼業農家に自給的農家の合計	(注釈削除・用語解説で説明)
	P.17 年齢別の基幹的農業従事者数の表	(注釈追加)	※平成22、27 年は販売農家、令和 2 年は個人経営体(農業経営体のうち個人〈世帯〉で事業を行う経営体)の数値
※	P.26 ①	本市にある農(農業、農地)は、市民に不可欠な食料を安定的に供給する基盤であるとともに、防災や良好な景観の形成、環境の保全等の多様な機能を有しており、～	本市にある農(農業、農地)は、市民に不可欠な食料を安定的に供給する基盤です。 <u>低い食料自給率が大きな問題となっている状況において、農地を保全、活用し農産物の生産を維持、拡大する取組みは重要です。</u> 同時に、防災や良好な景観の形成、環境の保全等の多様な機能を有しており、～
※	P.26 ④	「健康」応援都市を目標とする本市としても、～	「健康」応援都市の <u>実現</u> において、本市としても、～

	P.29 ①食と暮らしを支える多様な農業経営 経済	専業農家から小規模農家まで、多様な経営のあり方に対して支援をします。	認定農業者等の中核的農家から小規模農家まで、多様な経営のあり方に対して支援をします。
	P.32~35 基本指標の設定	(追加)	
※	P32 ②農地面積	農地面積は、平成 25(2013)年時点で 151.7ha でしたが、令和4(2022)年時点で 117.6ha(生産緑地 105.4ha、宅地化農地 12.2ha)(東京都総務局資料)と、10 年間で 34.1ha(22.5%)、年平均で 3.4ha(生産緑地が 2.4ha/年、宅地化農地が 1ha/年)減少しており、	農地面積は、平成 24(2012)年時点で 154.8ha でしたが、令和4(2022)年時点で 117.6ha(生産緑地 105.4ha、宅地化農地 12.2ha)(東京都総務局資料)と、10 年間で 37.2ha(24%)、年平均で 3.7ha(生産緑地が 2.7ha/年、宅地化農地が 1ha/年)減少しており、～
	P.36~47 実施主体	行政、行政(農業委員会)	市、農業委員会、東京都を区別して記載
	P.38 目指す方向性	再生可能エネルギーの利用、省エネルギー、温室効果ガスの排出量の削減など、環境への負荷の低減に資する生産活動の促進とともに、流通の合理化及び消費を促進するため～	再生可能エネルギーの利用、省エネルギー、温室効果ガスの排出量の削減、 <u>農業活動で発生する廃棄物の減量</u> など、 <u>環境への負荷低減に資する生産・流通を促進するため、～</u>
	P38 事業の展開 事業①	農業による環境への負荷軽減のため、省エネルギーや脱炭素化、化学農薬・化学肥料の低減等に対応した農業生産、 <u>流通、消費</u> の仕組みを整備検討し、取り組む農業者を支援します。	農業による環境への負荷軽減のため、 <u>農業活動で発生する廃棄物の減量</u> 、省エネルギーや脱炭素化、化学農薬・化学肥料の低減等に対応した農業生産、 <u>流通の仕組みを整備検討し、取り組む農業者を支援します。</u>
	P.43 事業③	JA により営農支援事業を実施し、農業者への効果的な支援策を検討します。	JA による営農支援事業の情報提供を行い、農業者への効果的な支援策を検討します。
	P.45 目指す方向性	農業と異分野との連携を積極的に推進し、新しい枠組みでの農業振興を図り、農産物の品質・価値の向上、消費拡大及び市民の農業への理解促進を図ります。	<u>農地の保全や新たな価値を創造するため、農業者や地域の多様な主体が参画する仕組みづくりを推進します。</u> また、 <u>新しい枠組みでの農業振興を図り、農産物の品質・価値の向上、消費拡大及び市民の農業への理解促進を図ります。</u>